

一北の子



大和第一北小学校
学校だより No. 2
平成30年5月18日

豊かな心をもった、たくましい子

〈よく考える子・助け合う子・進んでやる子〉

命を懸けたメッセージ

校長 橋詰勝司

4月27日の家庭教育学級でお話した、りくしくんのことを、もう一度、みなさんにお伝えします。

私が以前勤めていた小学校に、りくしくんという男の子がいました。

りくしくんは、4月、夢と希望にあふれた小学校生活をスタートさせました。ところが入学してから2ヶ月後の6月、脳に腫瘍（しゅよう）が見つかり、7月には手術を受けました。その後、放射線治療や化学療法を行い、1月には肝細胞移植という大きな治療を行いました。しかしその治療に耐えきれず、彼の体はどんどん弱っていきました。

こん睡状態のまま迎えた1月18日、7歳の誕生日に、学級のみんなからのメッセージが彼のもとに届けられました。お母さんは、ベッドで目を閉じたままのりくしくんに、何度もそのメッセージを読んであげました。みんなが歌ってくれた歌のテープも繰り返し聴かせました。するとその翌日、こん睡状態だった彼の様子に変化が現れ、その後、少しずつ回復に向かい始めました。友だちの励ましや歌声が、彼の心と体に届いたのです。お母さんは、改めて仲間のパワーのすごさを感じたそうです。おかげで3月には家に戻ることができました。そして2年生になった10月には、わずかな時間でしたが、学校に行くこともできました。

学校で友だちから、「がんばったね。」「明日も来られる?」と、たくさん声をかけてもらいました。りくしくんは、「明日も学校に行く。」と嬉しそうに答えました。大好きな学校にずっと通えることがうれしくてたまりませんでした。しかし、悲しいことに、病気が再発してしまいました。お母さんは、入院生活が長くなることを彼に伝えました。すると彼は、ぽろぽろと涙をこぼしながら、「お母さん、ぼくがんばるから応援しとって。」と応えたそうです。

りくしくんは、明るく、人と話すことが大好きで、心の強い、ありがとうをたくさん言ってくれる子でした。入院生活は長かったけれど、家に帰ってくると、「お母さんといっしょに作る」と言っ、料理の手伝いをいっしょにやりました。また、彼はきれい好きで、「お母さん、部屋をきれいにするよ。」と、いっしょに片づけや掃除をしてくれたそうです。

その後も、入院や退院を繰り返しましたが、その頃には、薬の副作用で口の中に大きな口内炎ができ、痛みと共に食事の味もわからなくなりました。ふつうの子どもなら食欲がなくなり、体力がどんどん落ちていくそうです。ところが、「学校へ通いたい」という強い願いを持っていたりくしくんは、味が分からなくなっても、口の中が痛くて食欲がなくなっても、食べることをあきらめなかったそうです。食

べなければ体力がなくなって学校へ行けなくなるからです。低学年の児童で、これほど強い精神力と意志を持っていたことには驚かされます。

さらに病状が悪化し、意識を無くしてしまうこともあったりくしくんですが、遊びに来た友達の呼びかけで意識を取り戻すという奇跡的なできごともあったそうです。彼にとって、友だちはそれほどかけがえのないものでした。

りくしくんが亡くなる前日、友だちが会いに来ました。「友だちが来てくれるのうれしいんやて。来てくれてありがとう。また来てね。」と言いながら友だちを見送りました。明日もあると思っていたりくしくんでしたが、次の日、友だちと会うことは叶いませんでした。「大好きな小学校にもっと通わせてあげたかった…。友だちといっぱい遊ばせてあげたかった…。もっといろいろなものを見せてあげたかった…。いろいろな経験をさせてあげたかった…。」このお母さんの願いも叶うことはありませんでした。

みなさんは、難病の子の願いを叶える『メイク・ア・ウィッシュ』という活動をご存知ですか？その『メイク・ア・ウィッシュ』の対象に、彼が選ばれました。もし野球が大好きな子なら、「エンゼルスの大谷選手と球場でキャッチボールがしたい。」と答えるかもしれません。しかしりくしくんは、「今一番したいことは何？」と看護師さんから質問されたとき、こう答えました。

「**学校に通いたい**」と。

りくしくんの一番の願いは、『学校に通うこと』だったのです。子どもたちが毎日、当たり前のように通っている小学校。その小学校が、彼は大好きでした。私は、彼のこの強い思いを、私たちの宝物にしていかなければならないと思いました。全ての児童が、『**学校と、友だちのことが大好き**』と心から思える学校をつくり出していくこと…それは、りくしくんが、私たちに命を懸けて伝えてくれたメッセージです。



重大な役割を託された通学班

健太郎さん、珠々奈さん、陽菜さん、琉斗さん、春斗さん、呂威さんの6人は、毎日、一列に並び、全員がそろって安全に気をつけて登校しています。横断歩道を渡り終わったところでは、横一列に並び、止まってくれた運転手さんに気持ちのよいお礼のあいさつができます。これは、大和第一北小学校のよさを代表する姿のひとつです。

5・6年生が中心に班長や副班長となって組織されている通学班。それは、住んでいる近隣地域の児童が集められ、便宜上組織されている集団です。しかし、児童によって児童の命を守っている組織であるからこそ、その役割は非常に大きく、重いものがあります。通学班に託された役割は重大です。

言うことを聞かない子がいます。ふざける子もいます。なかなか早く歩かない子もいます。2列になっておしゃべりをやめない子もいます。異なる学年、異なる性格の子の集まりだから当たり前です。そんな集団の先頭や後ろに立ち、後ろを振り返ったり、声をかけたりしながら、毎日、低学年の歩く速さに合わせて歩いている通学班長や副班長。保護者や地域のみなさんからの認め励ましもよろしくをお願いします。また、班長・副班長以外のお子さんの保護者の皆様には、お子さんが班長や副班長の言うことをきちんと聞き、1列に並んで安全に登校するよう、今一度、各家庭でのご指導をお願いします。